

栃木県人会紹介 ハノイ栃木県人会(ベトナム)

現地名 ハノイ栃木県人会(略称:栃の木会)
設立年月日 2013年1月10日
所在地 ハノイ
会長 小松 武彦(矢板市出身)
会員数 8人(2015年12月末現在)

ハノイ栃木県人会は2013年1月に栃の木会として発足しました。

元会長の松本、現会長の小松が12月に懇親を図っていたとき、同郷の栃木人はもっとハノイにいたらうと、周囲に声をかけて集まったのが始まりです。

8名から始まった栃の木会ですが、入れ替わりもあり現在も8名と少し寂しいところもあります。ただ、集まれば県北・県央・県南と対抗戦のように地元自慢をしています。

簡単にハノイをご紹介しますと…。

ベトナムの首都で政治の中心地。一党制で共産党本部もハノイにあります。

その発展は1010年に建国された李朝の首都となったことに始まり、旧市街と呼ばれるホアンキエム湖の北には、当時の城壁や街並みが残されています。町は、青々とした街路樹が連なる通りや、レモンイエローのフランス様式の建物、静かな水面の湖など鮮やかに彩られて穏やか感じます。大学も数多くあり、ベトナムの文化、芸術の中心としても知られています。フランス統治時代に有名な画家たちが描いたベトナムの風景は高い評価も得ています。この他水上人形劇をはじめ、伝統芸能も盛んです。

ベトナムの衣装であるアオザイはベトナム人女性を更に美しく、我々を魅了します。

ハノイに来てびっくりすることはバイクの多さもあります。朝夕の通勤ラッシュ時は歩道もバイクが攻めてきます。道路を渡るのも一苦労です。



▲ハノイの渋滞

私たちの活動としては、以前は毎月実施していましたが、現在は2~3か月に一度のペースで懇親会を開催しています。



▲ハノイ栃木県人会の懇親会

ハノイはベトナムの北部に位置します。北部エリアの大きな都市としてハノイ、ハイズン、バクニン、ハイフォンなどが挙げられますが、当県人会はハノイのみで活動しています。会員の年代も30代~40代と近いので、アットホームな会となっています。

ベトナムも中国並みにバイクの排気ガスによる空気汚染や、この冬の時期はなかなか太陽もでないどんよりとした天気が続きます。ちょっとした四季もあり、夏は40℃を超え、冬は10℃を切ることもあります。なお、10℃を切ると学校など休校になります。

ここ最近では日本人も増え、日本食レストランの出店も増えています。

アジアの中では一番日本人の口に合う料理がベトナム料理だと思います。朝食は代表的なPho(フォー)やBun(ブン)が寝起きのおなかにやさしくしみていきます。

ベトナム語のこんにちははシンチャオ!(朝昼晩いつでもOK)、その他 アンコンチュア?(ご飯食べた?)などが挨拶言葉です。ベトナム人スタッフが家に遊びに来たときなど、いきなりご飯食べた?って聞いてきてなんでと思ったのですが、ベトナム流のコミュニケーションのとりかただったんです。

2月は中国同様に旧暦での正月があり、テトと呼ばれています。このテト休み中はハノイから一斉に田舎へ帰るので、閑散とした街になります。

ハノイ栃木県人会が発足した2013年はちょうど日越友好40周年で、安倍首相が就任して一番にベトナムへ来たことも話題になりました。

前会長の松本、前事務局の浜崎は現在タイに移動し、タイの栃木県人会にも参加しています。

今後はASEANの栃木県人会ともつながりを持ち、年に一度くらいASEANで集まれるようにしたいと考えています。

文責: 浜崎秀行(ハノイ栃木県人会事務局補佐)